

保護者の皆様

廿日市市立大野東小学校
校長 谷本 直子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

菊花の候、保護者の皆様方には平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、見出しの学力調査について、次の通り結果をまとめましたので、報告いたします。調査結果をふまえ、すべての学年において、今後も児童の学力向上に努めまいります。

1 各教科の結果及び県・全国平均通過率との比較状況

【 全国学力学習状況調査 第6学年 】

	本校通過率 (%)	県平均通過率 (%)	全国平均通過率 (%)
国語科	71.0%	66.0%	64.7%
算数科	72.0%	70.0%	70.2%

2 結果から見えてきた成果と重点課題

国語科	<p>本校の正答率は、全国・県を上回っており、基本的な学力の定着が見られる。しかし「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる（記述問題）」ことを主旨とした設問は、全国・県共に平均正答率を下回っている。長文を読むことに慣れていないことのほか、①文章や問題文の大事な文を見付けたり、要旨を読み取ったりすること。②文章と図表とを関連させて考え、回答（記述、選択）することに課題がある。</p>
算数科	<p>本校の正答率は、全国・県を上回っており、基本的な学力の定着が見られる。基本的な内容を解答する設問はできていることが多いが、いくつかの内容を関連させて考えたり、記述式で答えたりする設問ができていない傾向がある。特に①直角三角形の2枚を組み合わせた図形の面積の大小について答える②平行四辺形の面積の出し方を説明するこの2つの設問は活用問題であるがこの2問が全国・県平均を下回り、問題の中から必要な情報を整理して考えることが苦手であることが分かる。何を答えるとよいのか意識して、必要な情報（数、項目、公式など）を選び解答することに課題がある。</p> <p>また国語・算数ともに、選択問題であってもわからない設問には「答えない（無解答）」傾向がある。正答以外答えたくないと思っているのではないかと考えられる。</p>
その他参考となる事項	<p>児童質問紙の回答をみると、基本的な生活習慣が身につけており、家庭や地域で落ち着いて生活していることが分かる。「自分にはいいところがあります（自己肯定感）」「難しいことにも失敗をおそれず挑戦している」「友達と協力するのは楽しい」などの多くの項目で、全国や県平均を</p>

	<p>上回るなど、学校生活や友達関係などにも肯定的に向き合っている様子がうかがえる。</p> <p>「算数で学習したことを普段の生活場面で活用できないか考えている」「各教科で学習したことを生かしたり、自分の思いなどをもとに新しいものを考えたりする」などの活用することへの意欲の面では、全国や県平均を下回る。自分がしなくてはいけないことには真摯に取り組むが、それ以上工夫したり活用したりしようとすることには消極的な傾向がある。</p>
--	--

3 重点課題に対する指導方法等の改善内容

<p>学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主語・述語を常に意識させ、読む・書く活動を行う。 低学年から、主語・述語の文の基本を意識させる。長文では「動作の主体は何か」「何が書かれているか」、問題文では「何が問われているか」を読み取ることができるようにする。 ○ 国・算共通課題「文章・資料・設問の主旨の読み取りと説明すること（書く）を充実させる」 国語科を中心に、「要旨を正しく読み取る」学習の仕方を6年間で身に付くよう指導する。 また、読み取ったことを条件に合わせて書く（例「自分の意見を理由を挙げて100字以内に書く」など）活動を普段の学習に位置付けて継続して取り組む。 国語科以外でも説明や考察など、意図的に書く活動を取り入れる。 ○ 学年の学習をやりきる 正しい音読・くり上がり・くり下がり・九九など基本的な技能に支えられる意欲に目を向け、家庭との連携も含め日常の学習指導を大事にする。その学年で付ける力をしっかり身に付けることができるよう指導を進める。 ◎ 間違いを大事にする・活動をやりきる 普段の学習から「まちがい」を大事にする授業を行う。間違ふことから「考えが広がる・深まる」ことを伝え、価値付けする。また、分からなくても何かを書いてみることを、空欄で提出しないことを指導していく。
<p>学習を支える力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律・学習に向かう心 引き続き、「み・そ・あ・じ（身だしなみ・掃除・あいさつ・時間）」を柱とした学校生活の基本を大事にし、前向きに学習する基本を身に付けさせる。また外遊びや朝ごはんなど自分の健康への意識付けも、様々な機会を通して行う。 ○ 学校生活を自分たちがつくる 学級の当番・係、委員会などの活動や話合いで決めたことを、自分たちで「考え、実行し、振り返る」ことにより、自己肯定感が高まっている。今後もこれらの活動を大切に、やりきったことへの達成感や人の役に立ったという自己有用感を更に高めることで、生活への充実感をもたせ主体性を育てていく。